

死後110年を過ぎてなお
作品が世界中で上演され続けているアントン・チェーホフ。
その戯曲第一作が、ロシアの演劇大学生たちの真摯な演技で今、よみがえる。

ワタソゴフ記念国立アカデミー劇場付属
B・シューキン記念演劇大学劇団日本公演

私は、
人間の不公平さに
驚いているの。
なぜ愛情は愛情で応えられず、
真実の代償が嘘なの？

アイビー

アントン・チェーホフ原作
演出：ミハイル・セマコフ

◆字幕付き

2015年 6月2日(火) 劇場シアターX(両国) 全席自由2,000円 開場18:00 開演18:30
6月3日(水) 東京外国語大学プロメテウスホール(多磨) 開演10:10 大学関係者対象:入場無料
6月4日(木) 早稲田大学小野記念講堂(高田馬場) 開演18:15 一般入場者含め先着200名様。(予約はロシアン・アーツへ)入場無料
6月6日(土) 桐朋学園芸術短期大学小劇場(仙川) 開演15:00 大学関係者対象:入場無料

問い合わせ先:ロシアン・アーツ TEL:03-5919-1051

主催:ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

共催:劇場東京両国シアターXカイ 東京外国語大学総合文化研究所 早稲田大学坪内博士記念演劇博物館
桐朋学園芸術短期大学

後援:ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省、駐日ロシア連邦大使館、ロシア連邦文化協力庁、日協会、INARTEX



JAPAN AIRLINES

B・シューキン記念演劇大学劇団日本公演

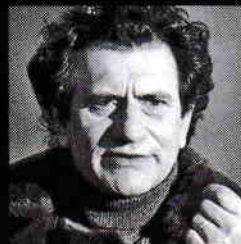
アントン・チェーホフ原作

イワーノフ

B・シューキン記念演劇大学とは

クニャーゼフ学長

創立100年を迎えたロシアの名門演劇大学のひとつ。2008年にロシア文化フェスティバル IN JAPANの一環として来日公演が行われ(演目はL・アンドレーエフ作『我らが人生の日々』)、日本の演劇関係者、学生をはじめとする観客に大きな感動を呼んだ。学長はロシア連邦人民芸術家・俳優のE・クニャーゼフ。

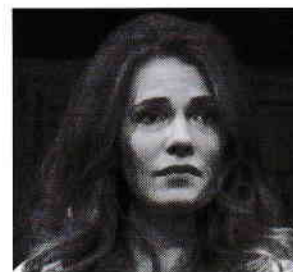


あらすじ

かつては理想の実現を夢見て精力的に活動していたイワーノフだったが、行き詰まり、経済的にも苦しくなる中、今は何もする気になれない。熱烈な恋愛結婚をした妻アンナへの愛情も冷めてしまった。そんなイワーノフに思いを寄せる若いサーシャ。イワーノフはサーシャに愛を告白され、かつての活力がよみがえったような気がしたのだが…。

キャスト

- イワーノフ: ドミトリー・ニコノフ
- アンナ (イワーノフの妻): アントニーナ・パペルナヤ
- シャベリスキイ (イワーノフのおじ): パーヴェル・テヘダ=カルデナス
- レーベジェフ: イヴァン・ヴォロトニヤク
- ジナイーダ (レーベジェフの妻): ムラダ・アツケルマン
- サーシャ (レーベジェフ家の娘): ナターリヤ・イグリナ
- リヴォーフ (若い医師): ドミトリー・マリツェフ
- パーキナ (若い寡婦): エカテリーナ・ルイジユク
- コスィフ (税務署員): アレクサンドル・リミン
- ボールキン (イワーノフの遠い親戚、彼の領地の支配人): アレクサンドル・ゴルバトフ
- アフドチャ (なんでも屋の老婆): エカテリーナ・オメリチュク
- ガヴリーラ (レーベジェフ家の従僕): セルゲイ・グリシチェンコ
- 客人: ミハイル・オゾルニン、
アンドレイ・イルキン、
セルゲイ・ソツェルドツキイ、
イヴァン・ステパシユコフ



それでも貴方を愛して、ひとときも放っておいたことはなかったわ

演出: ロシア連邦功労芸術家、教育学准博士、教授ミハイル・セマコフ
 演劇大学芸術監督: ソ連人民芸術家・ロシア連邦国家賞受賞者、教授ウラジーミル・エトウシュ
 演劇大学学長: ロシア連邦人民芸術家・ロシア連邦国家賞受賞者、教授エフゲーニイ・クニャーゼフ
 美術: A・ベリコフ
 音楽: P・ガルキン
 照明美術: I・パドチェンコ
 衣装担当: S・ミロシニチェンコ、E・ミロシニチェンコ
 メーキャップ: A・グリジナ



劇場東京両国シアターXカイ



〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14 両国シティコア1階 ☎03-5624-1181
 ●JR総武線両国駅西口下車 左へ徒歩約3分
 ●都営地下鉄大江戸線両国駅A4・A5出口 徒歩約8分